

あいち海上の森センター情報誌



ムーアカデミー通信

Aichi Kaisho Forest Center News Letter vol.49 Autumn2021

海上の里は実りの季節を迎えたよ。
 「米」の字は「八十八」からできているんだ。
 収穫するまでに88回のお世話をすることでよりおいしいお米ができるからなんだって。
 とっても手間がかかっているんだね。



今号のトピックス

- ・海上の森散歩 ～晩秋から冬にかけての見どころ～…………… (2P)
- ・この人 NPO法人海上の森の会 細川小百合さん…………… (3P)
- ・センター職員随想リレー 語りべの一言…………… (3P)
- ・海上の森はいま (最近あった出来事) …………… (4P)

里と森の教室 海上の里 サツマイモの収穫と稲刈り

令和3年10月3日(日)に体験学習プログラムの「里と森の教室」が開催されました。

午前中にサツマイモの収穫、午後は間伐体験を行いました。

サツマイモは成長が良く、立派なものがたくさん収穫できました。



翌週の10月10日(日)は稲刈りを行いました。手鎌を使った昔ながらの手作業で刈り取った後、天日乾しのために稲架(はざ)掛けを行いました。今年は8月に長雨が続き生育が心配されましたが、平年並みの収穫があり皆ほっとしていました。

海上の森散歩 ～晩秋から冬～

11月に入り、朝晩すっかり冷え込むようになりました。海上の森は木の葉が色づく紅葉の季節を迎えました。海上の森では燃えるような鮮やかな紅葉は見られませんが、木々の赤、黄、茶の細やかな色合いに森の植物の多様さを感じさせてくれます。

また、実りの秋にふさわしく、様々な木の実が私たちの目を楽しませてくれます。実の多くは、中に大きな種子が入っていて、食べられる部分はわずかなものですが、実を食べた鳥たちによってあちこちと種子が散布され、里山の植生は再生産されています。冬になると落葉樹は葉を落とし、枝には冬芽が現れてきます。なお、カラー写真で楽しみたい方はホームページで公開しています。「ムーアカデミー通信」で検索してみてください。

参考文献：海上の森の自然観察ガイドブック（秋編・冬編）



ムクロジ 11月19日



コマユミ 11月29日



タカノツメ 11月23日



ヤマボウシ 11月14日



サネカズラの実 11月15日



サルマメの実 11月29日



サカキの実 11月28日



ソヨゴの実 11月28日



ムラサキシキブの実 11月2日



オオカメノキの冬芽 11月30日



ネズキの冬芽 11月28日



シデコブシの花芽 12月7日

この人「私の自然へのかかわり」 細川小百合さん

私は北関東の山あいの里に生まれ育ちました。小学校からの道のりは長く、川や野原でたっぷり寄り道をして帰りました。のんびりとした子ども時代です。

学習機の引き出しの中には誰にも見つからないようにして、友達にいつも会える状態をつくっていました。カマキリ、カノゴ、カイコ、カナヘビ、ザリガニ、アメンボとか。カイコやカノゴが引き出しの中で産卵してすごいことになり、お世話することができず、とうとう親に「自然のままがいいのだからもどしてらっしゃい」と言われました。そしてそれをやめました。その代わりに、母はベニスズメを飼わせてくれました。しばらくエサをあげたりとお世話をしていると、カゴの中に入っているのがかわいそうになり逃がしました。「外に出したらすぐに死んでしまうのよ」と叱られ、してはいけないことだったのだと大ショックを受けました。自然のままとはどういうことなんだろうとずっと考えていました。

時が過ぎ、名古屋に来て子育てをする時、「子どもにとって大切なことは何だろう」と考えました。自分の育ちを思い出し、人も自然に触れて育つのがいいのではないかと自主保育をすることにしました。現在成人した子ども達は当時のことをよく覚えていてかけがえのない時間だったと言います。うれしいことです。

その頃、自分の子どもだけでなく、地域の子も達に声をかけて自然遊びをしようとグループ活動をしていました。2006年、子どもの自然観察会で里山の暮らしをテーマにした時、初めて海上の森を訪れました。美しい里、たくさん

の生き物、植物に出会う度に胸がいっぱいになり、その豊かさに圧倒されました。それ以来憧れのまま何年もが過ぎ、やっと自分の時間ができた時、海上の森を歩くようになりました。

5年前そうして歩いていると海上の森の会の自然調査グループに会い、声をかけていただいたことがきっかけで入会しました。調査しながら歩いているうちに子ども達と一緒に自然を楽しみ、色々なことを発見する機会を持てたらいいなと思うようになりました。皆様の協力をいただき「森であそぼ！」を始めることができました。始まったばかりで、春、夏には参加者の皆さんと森を歩く仲間になれたところです。

自然を大切にしようと言葉で伝えるのではなく、体験から何かを考えるきっかけになればいいなと思います。こんな私ですがよろしくお願いします。



<プロフィール>
名古屋市緑区在住
海上の森の会理事
自然調査グループ所属

センター職員随想リレー 語りべの一言

海上の森を散策していて、ふと頭上を見上げると…

枯枝が折れて他の枝に引っかかっていたり、折れたまま垂れ下がっていたりすることがあります。

届く範囲であれば高枝鋸で処理するのですが、より高いところにあると、スローラインという細くて丈夫な紐を折れた枝に引っ掛けて、その紐を引き、枝を下に落とそうと試みます。一投で決まればかっこいいですが、なかなかそうはいきません。

下から見てた時には小枝くらいに見えても、実際落してみると意外と大きく、重量のある枯枝だったりします（直撃したら、たぶん「痛い！」です）。

「何やってるの？」と声を掛けられることもあります。注目されると緊張しコントロールが乱れます。

樹上に向かって紐の付いた重りを投げている職員を見かけたら、頭上に注意しながら一言掛けて通り過ぎていただくと幸いです。

海上の森はいま（主な出来事）

その1 川の冒険

海上の森で子どもたちと自然をつなぐ活動を行っている団体の「よりあい工房ばんどり」が「むささびっ子の森探検隊」を募り、夏休み最後の日曜日に吉田川で「川の冒険」を行いました。今年は8月中旬から雨降りの天候が続きましたが、この日は夏らしい快晴の天気となりました。

13家族、親子27人が参加しました。センター入口前に架かる橋のたもとから川に降り、赤池の手前まで約800mをさかのぼりました。途中途中、タモ網で「ガサガサ」を行うとカワヨシノボリ、カエル、オタマジャクシ、サワガニなど様々な生きものとの出会いがあり、子どもたちは普段経験することがない体験にびしょ濡れになるのも厭わず大興奮でした。夏休みのいい思い出となったことでしょう。



その2 企画展示

私たちの生活は生物多様性がもたらす恩恵に支えられています。この恩恵は「生態系サービス」と呼ばれます。しかし、人間活動による影響で、生物多様性が危機にさらされていると言われています。また、SDGsは、地球上の「誰一人取り残さない」ことを理念として、全ての国が取り組んでいく目標のことです。ここでも生物多様性は、社会や経済の持続的な発展の土台となる「生物圏」に関する重要な要素となっています。

今、私たち一人ひとりが生物多様性の重要性や素晴らしさを認識し、生物多様性に配慮したライフスタイルへ転換することが求められています。

現在、展示コーナーでは、あいち海上の森センターの取組と生物多様性やSDGsの目標との関係について説明していますので是非ご覧ください。



令和3年度森の楽校・森のようちえん参加者募集！！

日時：令和3年12月5日（日）午前10時から午後3時まで

場所：あいち海上の森センター

プログラム：森の楽校 森のリースづくり

森のようちえん 森のファッションショー

定員：森の楽校 小学生と保護者10組

森のようちえん 4歳以上の園児と保護者15組

申込期限：令和3年11月21日（日）まで（必着）

※詳細はこちら

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/r3morinogakkou.html>



編集後記

木々は色づき、澄んだ空気、海上の森は秋真ただ中です。しかし、木枯らしが吹くこともあり、冬の気配をすぐそばに感ずることも多くなりました。コロナは厳重警戒措置も解除され徐々に日常が戻りつつあります。この先も平穏な日が続くことを祈ります。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 2021年11月17日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kaisho/>

< QRコード >



ホームページ